

伊豆 岩戸山

峠から見ゆるは富士の高嶺と十国、五島か
山登りというより山下り実感のコース

岩戸山は熱海駅のほぼ北側に位置し、十国峠から歩き出すと、山登りというよりも山下りといった感じのコースがとれる、数少ない山のひとつである。

熱海駅①番のバス乗り場から元箱根行きのバスに乗車。十国峠登り口で下車、ケーブルカーに乗り換えて、十国峠頂上へ。十国峠は伊豆、駿河、遠江、甲斐、信濃、武蔵、上総、下総、安房、相模の十国と伊豆七島のうち五島が望めるところから、その名がついたといわれている。また、富士山はもとより、愛鷹連山、箱根連山、南ア、伊豆半島の山々や三浦半島、真鶴岬、厚総半島も見える。

展望台からは、「日金山東光寺本堂」と書かれた道標から石段を下っていく。すぐに芝原となり、源実朝が初島を見て詠んだという「箱根路を 我が越えくれば 伊豆の海や沖の小島に 波のよるみゆ」の歌碑が立っている。芝原の南東端から簡易舗装された道を下ると、右から熱海峠からの道が合

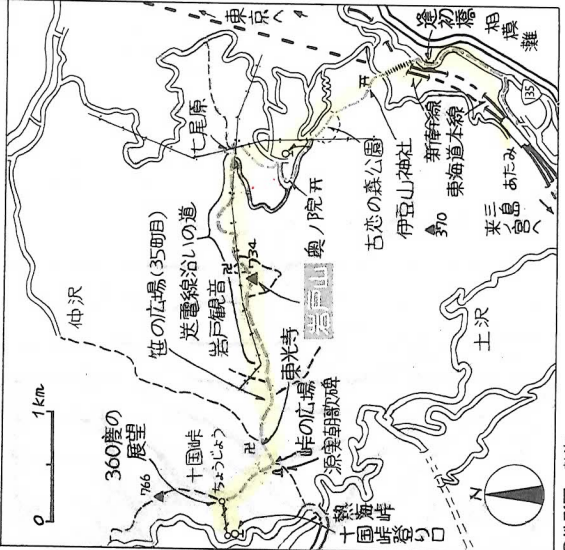
わせて峠の広場に着く。南無日金地蔵尊の赤い旗が並ぶ道を下って石仏の道に入ると、東光寺の境内

の一角に出る。ここには源頼朝が寄進した青銅の大仏がある。鳥居をくぐって少して、木の橋を渡る。町目石を見ながら進み、三十九町目で左へ仲沢への道に分ける。あまり展望のない道を進めると、右から熱海峠からの道が合

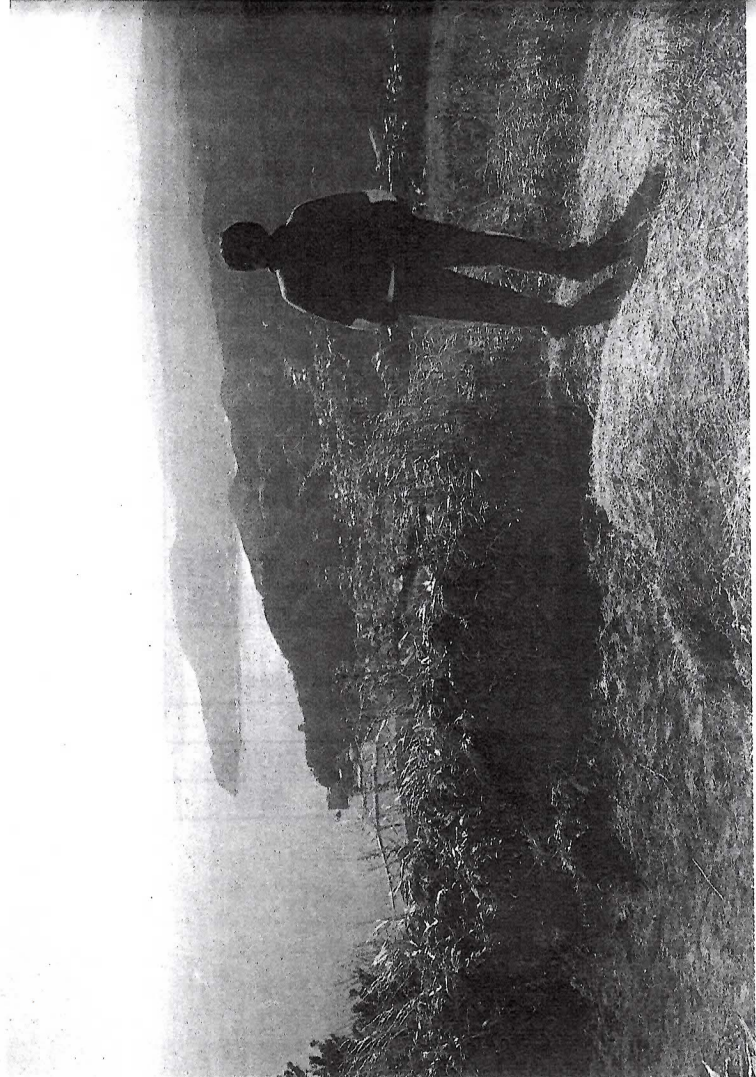
わけて峠の広場に着く。南無日金地蔵尊の赤い旗が並ぶ道を下って石仏の道に入ると、東光寺の境内の一角に出る。ここには源頼朝が寄進した青銅の大仏がある。鳥居をくぐって少して、木の橋を渡る。町目石を見ながら進み、三十九町目で左へ仲沢への道に分ける。あまり展望のない道を進めると、右から熱海峠からの道が合

歩行時間計 / 2時間45分
交通費概算 / 東京起点=4700円

- 交通 行き=東京駅(東海道本線普通)熱海駅(伊豆箱根鉄道バス35分)十国峠登り口(伊豆箱根鉄道ケーブルカー3分)十国峠 降り=熱海駅→東京駅
- 参考コース スタイルム 十国峠(15分) 東光寺(30分) 岩戸山(25分) 七尾原(35分) 奥ノ院(30分) 伊豆山神社(30分) 熱海駅
- アドバイス 伊豆山神社の石段を下ったところを横切っている車道はバスが通っているの、ここからバスを利用すれば熱海駅までの30分をカットできる。
- 問合せ先 熱海市役所 ☎0557・81・0151 交通=伊豆箱根鉄道バス熱海営業所 ☎0557・81・8231



●地形図=熱海

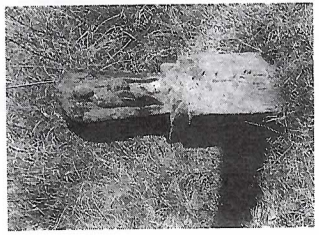


山頂から相模灘を見渡す

原が広がり、振り返れば出発点の展望台や、富士山も見える。七尾原への道に入ると、送電鉄塔の基部を通る。左へ岩戸観音への道が下っている。八〇はほどにつき下ると左から岩戸観音経由の道が合流する。そのすぐ先で右から山頂を巻いた道と合流する。だらだらと下っていくと、送電鉄塔の手前で、道標に従って右へ入る。従来の一般コースで、この先の七尾原で右折する道は工事のためコースが迂回し、わかりづらいので、ここで曲がるほうがよい。

林道に入り、大きく左へカーブしながら、ゆるやかに下っていくと、七尾原地の上部で従来のコースの車道と出会う。右へ入るとすぐ先の左側に奥ノ院がひっそりと建っている。

鳥居をくぐって少し下ると車道



町目石をかねた笹の広場の石仏

に出、まっすぐ行くと車止めがあり、「古恋の森公園」へと入っていく。案内板があつて、三つのコースのいずれをとつても伊豆山神社にたどり着く。石段を下っていくと車道にぶつかるが、さらに右のベンチがある石段を下りきると、国道二三五号線に出る。右折して北条政子が源頼朝と会ったという逢初橋を渡る。Y字路で国道と分かれ、右へたどれば熱海駅は近い。

山行のヒント

伊豆山神社の階段を下りきつた国道135号線の筋向かいにある浜会館の地下には、浜湯という共同浴場があり、汗を流せる。

熱海駅からバスで約7分のところにMOA美術館 ☎0557・84・2511があり、国宝・重要文化財に指定されている多くの美術品が鑑賞できる。高台にあり、梅の木が植えられた庭園からは相模湾も見渡せる。9時30分~17時 木曜休(祝日の場合は閉館)。1600円。

